

**<研究主題> 確かな学力の向上をめざす授業づくり
～協同学習における効果的な ICT の活用～**

下関市立勝山小学校

研修の概要

本校では、今年度、確かな学力の向上のために主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行っている。昨年度は「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた ICT の活用」という研修テーマで校内研修を進めたが、この中で、ただ、ICT 機器を授業の中で使えばよいということではなく、「もっと効果的に使うことはできないだろうか。」という課題が新たに生まれ、今年度は、協同学習場面で ICT 機器を効果的に活用して、授業改善を行うことをテーマに、校内研修を進めた。

研修の成果

主体的・対話的で深い学びを実現するために、協働学習において ICT 機器を以下のように活用して成果があった。

① 課題共有

○ 課題の提示

- ・電子黒板に課題を提示した。
- ・児童のタブレットに課題を送信することで、課題共有の徹底を図ることができた。

○ 資料・教材の配信

- ・資料、教材を配信したり、ダウンロードさせたりすることで、児童はタブレットで閲覧できた。

② 個人思考

○ 個人思考の支援

- ・容易に書いたり消したりすることができるため、試行回数が増えた。
- ・試行回数が増えることで「できる・できない」「分かる・分からない」の整理ができた。

○ 既習事項の想起

- ・タブレットに保存した学習履歴を閲覧することで、既習事項の想起がしやすくなった。

③ グループ思考

○ 学び合いの支援

- ・タブレット上で書いたり、消したりしている点を見合うことで論点が把握しやすくなった。
- ・タブレット内の資料を示すことで自分の考えを分かりやすく伝えることができた。

④ 全体共有

○ 学びの足場がけ

- ・活動中、各グループの進捗を電子黒板に提示した。ほかのグループの考えを閲覧し、比較することで、自信をもったり、軌道修正したり、考えを深めたりすることができた。

○ 過程の共有

- ・電子黒板に結果を提示するだけでなく、結果に至った過程を電子黒板で再現させることで思考の可視化を図ることができた。

おわりに

研究の柱である「協同学習における ICT の効果的な活用」を進めるにあたり、教育会の助成をいただいた。助成により、授業における ICT 機器の効果的な活用につなげることができた。このことは、児童の学びへの意欲を高めたり、学ぶ筋道を理解しやすくなったり、学びを深めたりすることにつながった。

これからも授業づくりはもちろん、様々な研修を通して、教師一人ひとりの授業力向上と、学校全体の授業力向上に向け、更に精進していきたい。今後ご指導のほどよろしくお願いいたします。



<研究協議会まとめ>

1. 自評から

- 導入で、個人学びが充実するようにフラッシュカードを使い、前時を振り返られる工夫をした。
- 紙を配付して、平行かどうかを三角定規で確かめられるようにした。
- タブレットだと、色をつけることができ分かりやすい。また、試行錯誤するのに有効だった。
- 平行に着目する児童が多かった。

2. 良かったところや課題として上がったこと（主なもの）

- 分類をするのに、タブレットはとても有効だった。
- 分類を2～3種類に絞ることで、焦点化した話し合いが進んでいて良かった。
- 「平行に着目する」という視点で分類させたことが良かった。
- フラッシュカード、シンキングツールがとても有効だった。
- 紙媒体が用意されていたので、平行かどうかを確かめやすかった。ただ、三角定規の使い方が定着していない児童がいたので、はじめに全体で確認すると良かった。
- 上手な発表の仕方をしている児童をお手本にして、前に出して発表させると良かった。
- タブレットの色つけに夢中になり、こだわりすぎている児童がいた。
- 台形・平行四辺形の定義の押さえが甘かった。
- 作図をさせるより、練習問題2をした方が、本時の内容が定着した。

分類はタブレット、平行の確かめは紙で、と使い分けができていました。



タブレットの画面を見せながら、自分の分類を発表していました。



<ICT の効果的な活用について>

○ 効果的な場面は？

本時の授業で ICT を活用していた場面は、

- ① 課題共有場面
- ② 個人思考場面
- ③ グループ思考場面
- ④ 全体共有場面 の4場面での活用が見られました。一つずつ振り返ってみたいと思います。

① 導入場面では、前時の振り返りとしてフラッシュカードが使われて、とても有効だったと思います。ただ、課題としても挙がっていましたが、平行を確かめるための三角定規の使い方を全体で押させた方が、その後の活動で、平行かどうかをきちんと確かめることができよかったです。

② 四角形を分類する場面では、シンキングツールを効果的に使っていて、子どもたちが試行錯誤するのにとても有効だったと思います。また、平行かどうかを確かめるのはタブレットより紙の方が効果的なので、そのためのプリントが用意されていたのが素晴らしいです。

③ グループで自分の考えを紹介し合う場面では、タブレットをきちんと友達に向けて話し合いをすることができていました。ただ、グループによっては、自分のタブレットに夢中になっている子もいたので、約束をきちんと守らせることが大切だと思いました。

④ 全体共有の場面では、本時の内容をきちんと定着させる場面でもあるので、正しい分類をみんなでしっかりと押さえることが大切だったと思います。

たくさんの協働学習場面で、タブレットを活用することに挑戦し、シンキングツールなどの有効性も提案してくれた授業でした。ありがとうございました！！

<研究協議会まとめ>

1. 自評から

- ・本時では「獣医の仕事は大変？大変じゃない？」という選択型の発問をした。この発問では、全員が参加でき、意見も活発に出てきたので良かった。
- ・どの子ども発表しやすいように型を決めて発表させたのは良かった。
- ・自分の考えを書く時に文の始めを書いていたので、書きやすかった。
- ・話し合いに深まりがなく、ふり返りに何を書けばいいのか困っている児童がいた。子どもたちの変容が見られなかった。

2. 良かったところや課題として上がったこと（主なもの）

- ・ふり返りにどんなことが書けていれば評価が高かったのか？先生の目指していたゴールは？
- ・板書で出されていた動物の名前は、仕事ではないと思う。
- ・話し合いがもっと深まるような発問が良かったのでは？
- ・本文の叙述に即して発表させると良かった。自分の感覚(主観)で、大変か大変じゃないかを判断していた。
- ・教室に学びの足跡が分かるような掲示がしてあって良かった。
- ・カードが色分けされていて、子どもたちの意見が一目で分かるようになっていた。(ICTの効果)
- ・大変なことはわかっているので、「大変じゃない」理由を聞く必要はなかったのでは？大変かどうかではなく、獣医の仕事のすごいところを探させると良かった。
- ・タブレット自分の考えを打ち込んでいたので、2年生なのに慣れているなあと感じた。
- ・つぶやきがたくさん出るクラスで素晴らしい！
- ・定型文のおかげで全員が参加することができていた。



色分けされていたので
ちらを選んだかが一目で
分かる工夫がされていま
した。



友達の発表を聞き
ながら、メモを取
る子どもたちもい
ました。すごい！

<ICTの効果的な活用について>

○ 効果的な場面は？

本時の授業で ICT を活用していた場面は、個人思考場面と、グループや全体での共有場面でした。その二つの場面に着目して今回の授業を振り返りたいと思います。

① 個人思考場面

主発問が選択型だったので、自分の考えと同じものを選ぶだけなので簡単であり、理由も書きやすいように型が決まっているなど、全員が参加できる工夫がされていました。誰でも主体的に取り組むことができる工夫で、低位の児童にも優しい、ユニバーサルデザインな授業展開だったと思います。

②共有場面（グループで・全体で）

共有する場面では、「大変派」「大変じゃない派」のカードが色分けされていたのでクラスの傾向が一目でわかり、効果的でした。「大変派」が多いことが分かり、そのあとグループでの話し合いへと進んでいったのですが、ここでの練り直しの発問が、今回の授業のポイントだったと思います。グループでの対話を通して、より深い学びへと変えていくために、また、本時のねらい「獣医の仕事について考えを深める」ためにはどんな発問がよかったのか？今回の授業では、練り直しの発問は、「大変じゃない派の人たちを納得させるようにしよう」でした。納得させるには、協議会でも指摘があったように、根拠を「叙述に即して」出させ、話し合わせなければいけません。その指示がなかったので主観で話し合う児童が多く、グループによっては深めることが難しかったようです。もう一つは、全体でグループの話し合いをまとめるときに、教師が「子どもたちの気づきの何を取り上げるか？」を決めておくことです。これは、教材研究をしていく中で、獣医の仕事の大変さとは何か？この説明文は何を読者に伝えたいのか？をきちんと教材研究を通してつかんでおかなければなりません。わたしは、教材文を読んで獣医の仕事の大変さは「命を預かっていること」だと思いました。なので、全体ではそのような意見が出てきたときには取り上げて、広げたいなと思いました。皆さんならどうしますか？今回の授業のおかげでICTだけでなくいろいろなことを考えさせていただきました。